

テーマ趣意文

※「テーマ趣意文記入例」に目を通していただいた上で記入をお願いいたします。

部門番号一覧は、ホームページ上の[部門番号一覧](#)からご確認ください。

中央大学 篠原正博ゼミ **篠原ゼミ B** パート

25

部門番号

部門名 労務管理論

テーマ 日本の労働問題について

サブテーマ 女性も「活躍」できる社会を目指して

趣意文

今、「女性活躍推進」が日本でよく議論されるようになってきている。日本政府は女性活躍推進法の制定や企業へくるみんマークを提供するなど、日本の女性活躍を促進できるように様々な制度が導入されている。

実際に、女性の労働力率のデータに見られていた「M字カーブ」も年々解消されてきており、それに加えて女性が占める管理職率も少しずつではあるが年々上昇している。

しかし、「M字カーブ」が解消されたからと言って女性が「活躍」できる日本になっているとは言えず、政府も企業も女性の労働力率増加に目を向けるだけでなく、「活躍」できる方法をもっと探り、効力や需要のある制度を作り上げていくべきである。

そこで私たちは、単に女性の労働力率を増加させるだけではなく、女性が「活躍」するにはどうすればよいのかに着目し、キャリアアップ育成制度がどのくらいあるのか、女性活躍のための制度の需要や発信方法などについて考えていきたい。

討論では「女性の労働問題」や「ダイバーシティ企業」、「女性活躍推進」、「男女が共に働きやすい職場」などをキーワードに討論していきたいと思う。

テーマ趣意文

※「テーマ趣意文記入例」に目を通していただいた上で記入をお願いいたします。
部門番号一覧は、ホームページ上の部門番号一覧からご確認ください。

中央大学

林ゼミ

パート

25

部門番号

部門名 労務管理論

テーマ 日本とインドネシアの職業訓練による人的資源開発の比較

サブテーマ それぞれのプロジェクトから見た能力開発の有効性

趣意文

2008年の「公正なグローバル化のための社会正義に関するILO宣言」では、ディーセントワークにおける戦略目標があげられている。ディーセントワークとは、その仕事において権利、社会保障、社会対話が確保されており、自由と平等の保障、さらには働く人々の生活が安定する、すなわち、人間としての尊厳を保てる生産的な仕事のことと定義づけられている（ILO、2018）。また、ディーセントワークへ近づく際の指針となる「ディーセント・ワーク・アジェンダ」（ILO）では、雇用の創出と事業の促進、労働の基準と権利、社会保障、ガバナンスと社会的対話の4つが挙げられている。本研究では、「ディーセント・ワーク・アジェンダ」の中でも、**working poor** 脱出の最大の経路である雇用の創出と事業の促進に焦点を当てる。雇用の創出と事業の促進には、持続可能な生計のための機会を生み出すことも含んでいる。（人間開発報告書、2015）

本研究では上述の雇用の創出と事業の促進を促進する方法として、HRDと就業支援が効果的か否かを調べる。

テーマ趣意文

※「テーマ趣意文記入例」に目を通していただいた上で記入をお願いいたします。
部門番号一覧は、ホームページ上の[部門番号一覧](#)からご確認ください。

明治 大学 藤江昌嗣 ゼミ 藤江昌嗣 A パート

25

部門番号

部門名 労務管理論

テーマ 働き方改革について

サブテーマ 労働人口の不足に対する、企業単位での解決策の模索

趣意文

2016年に「働き方改革」に関する取り組みが開始されてから、労務環境の改善は国・企業単位で注目されている問題の一つだ。

働き方改革に関する課題の中で、特に大きなものは「長時間労働」「正規・非正規社員の格差是正」「労働人口の不足」の3点である。本テーマではこの内、「労働人口の不足」について扱う。

今、労働人口の不足に対して官民両方面から対策が講じられている。政府は解決策として、高齢者の就業促進・出生率の増加等を挙げた。一方で政府による働きかけだけでは、この問題は解決しない。企業それぞれでの取り組みも不可欠なのである。

一般的には企業単位での労働人口の不足に対する解決策として、女性の雇用促進・外国人労働者の受け入れ、ITを導入・活用することによって労働生産性を上げるなどが挙げられる。

一方でこれらの解決策にはどのような問題点が潜んでいるだろうか？また課題はどこにあるだろうか？これらを討論した上で、最終的に、今企業が本当に取り組むべきことは何なのかについて求めていきたいと思う。

テーマ趣意文

※「テーマ趣意文記入例」に目を通していただいた上で記入をお願いいたします。
部門番号一覧は、ホームページ上の[部門番号一覧](#)からご確認ください。

日本大学 加藤恭子ゼミ 加藤ゼミ 14 期パート

25

部門番号

部門名

労務管理論

テーマ

同一労働同一賃金について

サブテーマ

日本でどのように取り入れるか

趣意文

現在、日本では正規労働者と非正規労働者の待遇格差が問題とされている。そのため私たちのグループは、2016年に政府が示した同一労働同一賃金を実現する方針に注目し、研究をしている。具体的には、日本における同一労働同一賃金のありかた、問題点、求められる取り組みなどを海外比較を行いながら調べて行く。採取的には日本でどうすれば同一労働同一賃金がうまく機能するのかを考えていきたい。